

## 事務局だより



## 現地に学ぶシリーズ

## 大高緑地を歩こう！

三月十三日に十一人の参加で「現地に学ぶ・大高緑地を歩こう！」を行いました。「大高緑地を愛する会」の溝口会長さんらに「恐竜パーク」の建設予定地の大高緑地公園を案内していただきました。

「恐竜パーク」は、愛知県が県営の公園の活性化のために、使用料収入を得るため民間事業者を募集し、有料の民間施設「ディノアドベンチャーライド名古屋」（恐竜パーク）ができることになった。使用料は年間一千万円程度になる見込み。利用料金は大人一回千三百円／中学生以下一回九百円となる予定で、年間利用者は十万人を見込んでいる。

建設予定地になっているところは、緑豊かな森になっているところでした。樹木の説明や土地の歴史、思い出などを聞きながら樹林の中を歩きました。この森は、大高緑地に遊びに来た人たち、近所の子供から大人までの多くの人たちの散歩、自然観察などに利用されている。この森に、カーブが走る道路をつくり、当然、樹木は伐採される

ことになる。伐採しないで残して欲しいと思われる樹木に、自然観察会のグループの人たちが名札をつけていた。予定地には、すでにトラロープが張られ、中へ入れないようにになっていた。森の横は、若草山と呼ばれる芝生広場があり、名古屋市街を含め遠方まで見渡すことができる。芝生広場は、多くの子供連れが遊んだりしていた。有料施設のため、自由に出入りはできなくなる。今まで自由に散歩できた場所から県民は追い出されることになる。愛する会をはじめ多くの人たちが、「住民説明会」の開催を要求しましたが、愛知県は、「大高緑地公園は、県のものだから」説明会は必要ないという姿勢を取り続けている。大高緑地公園の樹林の中や、芝生の広場を自由に散策できる当たり前のことの重要性を感じる日であった。

「鉄筋コンクリート造り天守閣は市民の宝」のレポートは秀逸

所報No.三七三号掲載の「鉄筋コンクリート造り天守閣は市民の宝」山口由夫氏のレポートは秀逸でした。『名古屋城は築城以来戦闘に使われたことのない「平和の城」であり、侵略戦争の最終結果としての空襲により焼失。二度と焼けないようにとの市民の願いから、「鉄筋コンクリートの天守閣」として再建された』との指摘は、目の鱗がとれたような感慨を感じました。「木造」伝統「文化」観光という短絡的な発想がまかり通っています。平和と民主主義が危機におちいつている現在こそ、「木造の天守閣がなんでも焼失したのか」との問いを大切にすべきです。山口氏のレポートをもっと広めましょう。

## ハガキ投稿

渡辺 康 氏